

民

四年

筆順

ミ
ミン
たみ

成り立ち



「氏」と同じように、古くなってかたむいている家の形を表した字です。

むかしは、くらしが大変でしたから、役所の建物はりっぱでしたが、ふつうの人のすむ家は、古くてかたむいた家が多かったのです。それで、古くなってかたむいた家の形で、「ふつうの人(たみ)」の意味を表したものです。例庶民、住民、民衆、市民。

また、「官(役所)」に対することばとして使われます。例民営、民間、民放。

使い方

▽むかしの庶民のくらしは、大変貧しいものでした。ひかくてきくらしが安定していた江戸時代でさえ、たび飢饉がおとずれると、飢え死にする人もいたのです。日本が豊かになったのは、ごく最近のことです。国民が力を合わせて努力したから、今の日本の繁栄があるのです。これからも世界の人々が豊かで幸せな生活ができるように、がんばりましょう。

熟語例

- ▽庶民(ふつうの人々。世間一般の人々)
- ▽住民(その土地に住んでいるひと。「わたしは、京都市の住民として、由緒のある建築物を大切に守って行きたいと思います」などというふうに、つかいます。)
- ▽民衆(世間一般の人々。庶民。「民衆の味方になってくれる政治家」などというふうに、つかいます。)
- ▽市民(市の住民。また、国民としての権利と義務を持つ人々という意味にもつかいます。「こんなに犯罪が多いについては、市民は安心してくらすことができない」などというふうに、つかいます。)
- ▽民営(民間で経営していること。)

使い方

- ▽暗い夜道を歩いて行くのは、少し無気味でしたが、どうにか無事に家にたどりつきました。
- ▽無心な赤ちゃんの寝顔を見ていると、無性にかわいくなります。でも、うっかり抱き上げて、泣かれたりするところまので、だまってそばで見っていました。

熟語例

- ▽無事(事故やけがや病氣など、悪いことが何も無いこと。)
- ▽無気味(気味が悪いこと。気持ちが悪いこと。)
- ▽無心(心に何も無い様子。また、「無心をする」という形で、「お金をなどをねだる」という意味につかうこともあります。)
- ▽無性(むやみやたら。なぜかはわからないけれど、強く何かを感じる時に、つかいます。)
- ▽無益(益が無いこと。役に立たないこと。「そんなことをしても無益なことだから、やめなさい」などというふうに、つかいます。)
- ▽無学(学問が無いこと。「わたしは無学で、そういうこととはわかりません」などと、つかいます。)

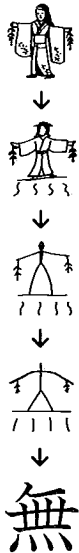
無

四年

筆順

ム
ム
な

成り立ち



人がかざりを手に下げて、舞を舞うすがたを表した「無」と、火がもえる形を表した「火」とを組み合わせて作った字です。

「火が物をやきつくして、あとには何も「ない」ことから、「ない」という意味を表したものです。

「何もない」ことを中国語では、「ブ」ということばで表しましたから、同じ発音の舞の「無」をかりて、「無」という字を作ったのです。

〔ムは呉音で、ブは漢音である。〕